

令和4年度 美浜区区民対話会【議事概要】

- 1 日時 令和4年10月25日（火）13：30～14：40
- 2 場所 高洲コミュニティセンター ホール1
- 3 出席者
 - ・地域関係者 高洲・高浜地区地域運営委員会 委員 18名
 - ・市職員 美浜区長 他4名
- 4 議事内容

（1）開会

（2）挨拶

- 高洲・高浜地区地域運営委員会 会長
- 美浜区長

（3）意見交換

【テーマ1：避難所について】

○地域関係者A

● 旧高洲二中跡施設

避難所については、その施設がなくなれば近隣の施設に振り分けられることとなり、ひとつの施設に振り分けられる住民が多くなる。

高洲・高浜地区では、今後旧高洲二中が避難所でなくなる可能性があるが、近隣の避難所のキャパシティは大丈夫なのか、災害時に本当に活用できるのか、などの不安がある。

費用対効果等の課題はあるが、市として本来的な活用を行う施設のみを避難所に設定するだけでなく、旧高洲二中もそのまま避難所として活用を続けるなど、住民の数に見合った避難所を設置するようお願いしたい。

○地域関係者B

● 防災にかかるソフト事業の強化

地域での防災・減災について啓発活動が行われているが、取組みとしては十分ではないと感じる。防災訓練などは行われているが、ソフト面での施策の強化にも取り組んで頂きたい。

例えば、地区別の防災カルテを作成しリスク情報を共有したり、親子で参加できる防災展・防災フェスタ、ワークショップのようなものについて、区と一緒に考えていきたい。

- **福祉避難所**

避難所においては、災害時の要支援者や高齢者など、避難所での配慮が必要な方への対応として、いわゆる福祉避難所の活用が求められている。しかし、設置基準が不明瞭で、必要な機材や支援人員の不足などにより、円滑に運用できない可能性があるため、福祉部門など市内部での連携が必要であると考えます。

また、少なくとも中学校区単位で一つは設置して頂きたい。

- **災害時の情報発信体制**

令和元年の台風 15 号の際には、情報を発信するうえでの連携やニーズの捉え方など、苦慮されたと伺っている。防災対策本部に専任の広報班のようなものを設置するのはいかがか。

○地域関係者 C

- **市（防災対策課）と区（くらし安心室）の役割**

市・区ともに防災関係部署があるが、その役割の違いを確認したい。避難所運営委員会の活動を通して、市・区の連携に課題があるものと感じている。

○地域関係者 D

- **備蓄品**

避難所に段ボールベッド・パーテーションなどの備蓄がないが、感染症等の状況を踏まえると、必要な備蓄品であると考えている。このような備品の備蓄の方向性や数量、運搬方法などをお聞かせ頂きたい。

○美浜区長

- **旧高洲二中跡施設**

市としては、現在保持している資源をいかに配分して最適化できるかを考えることとなるが、旧高洲二中避難所を廃した場合に、他に避難所として機能する施設が無く、避難所が足りなくなるのであれば、その機能は残していくべきと考える。それについては、資産管理の問題として、全市的な施設の集合化・複合化を視野に入れつつ、地域からのご要望も踏まえ、資産経営課を中心に庁内で検討を行っていく。

区としては、地域のリーダー・担い手の育成やコミュニティの核となるような場を確保できるのはありがたいと考えており、今後の動向を注視していきたい。

- **防災にかかるソフト事業の強化**

区では避難所運営委員会の研修会を実施しているが、内容については改善の余地があるものと認識している。他区の内容や地域で行われているワークショップなども参考に、皆さんからもアドバイスを頂きながら、内容を充実させていきたい。

地区別の防災カルテについては、他市で作成例があり、このような情報が市内全域で展開されれば、皆様にとってもお住いの地区の状況が分かりやすいのではないかと考えている。作成については、防災対策課・危機管理課に投げかけていきたい。

- **福祉避難所**

福祉避難所については、それに特化した備品等の配備がなされていないのが実情である。備品については防災対策課で対応しているので、区としては何がどの程度必要かを想定し、現場として要望していきたいと考えている。

また、福祉避難所の指定対象は障害者施設・高齢者施設となっており、市内で約 150 か所が指定されている。指定数自体は中学校区以上であるが、限られた種類の施設が指定されていることから、中学校区単位に設置するという細かな配置にはなっていない。身近にこのような施設がないと対象者は遠くの避難所まで行く必要性が生じてしまうことから、これまでの施設に限らず医療機関等と連携し指定を行うなど、防災対策課に要望を伝えていきたい。

- **災害時の情報発信体制**

令和元年房総半島台風（いわゆる台風 15 号）への対応にあたり、避難所運営委員会の皆様に対する情報発信が不十分であったという点は、反省すべき点として認識している。それを教訓として、市ではメーリングリストを整備し、避難所運営委員会・自主防災組織の皆様と連絡を取れる体制を構築している。

その他、市と災害に関する協定を締結している yahoo・ケーブルテレビ・FM 放送局等の関係機関が、災害時に市の情報を提供して頂けることになっている。

また、市でも Twitter・Facebook、防災無線など、様々な情報提供のチャンネルを準備しているので、市民の皆様もいずれかの手段で情報を入手して頂くようお願いしたい。地域のリーダーである皆様におかれましては、是非近所のお知り合いにもそのようにお伝え頂きたい。

- **市と区の役割**

発災時には、市に災害対策本部が設置され、情報を集約していく。区としても本部を設置し、各地域の避難所等の状況を集約し、必要な物資・人員の状況を市の本部に伝え、補給などを行っていく。

ご指摘のとおり、市・区の連携が十分でないことは認識している。市が実施している施策等について、区に情報が十分に共有されないこともあることから、区としても市の動きをしっかりと把握できるよう、市と調整し連携を強化していきたい。

【テーマ 2：稲毛海浜公園の活用について】

○地域関係者 E

- **情報発信**

令和元年度より稲毛海浜公園のリニューアルが行われ、バーベキュー場のリニューアル、グランピング場・ウッドデッキの整備などが行われているほか、コロナ禍で減少したものの、様々なイベントが行われているが、地元の住民に対しては情報提供が分かりにくい。

先日、ある事業について関係者が第 29 地区連協に説明にいらしたが、地元への情報発信について聞いたところ、「市政だより・ホームページに掲載している」以外の答えはなかった。イベントで影響を受ける地元へのアナウンスは、もっと丁寧にするべきではないか。

○地域関係者 C

- **施設の維持管理等**

公園内には廃止された航空博物館・ビーチセンターなど、使用されていない施設が

ある。また、公園内トイレの管理が悪く非常に汚い。そのような状況で新しい施設ばかり整備するのはおかしいのではないか。

公園の運営について調べてみると、民間企業が運営を行っている。グランピング・レストランなど、非常に価格が高い。地元のための公園ではなく、東京から人を呼ぶことしか考えていないのではないか。

○地域関係者D

● 松林・壁泉

海岸沿いの住宅は静かで自然が豊かであるが、海に近いため塩害に悩まされてきた。稲毛海浜公園のリニューアルの話が持ち上がった当初、防風林である松林を伐採するという話があった。この松については、住民が入居した際に費用をかけて植えたものも含まれている。また、正面入口の壁泉を撤去し、海が見えるようにする計画もあったが、それでは塩害が防げなくなると考えていた。

今のところ、松林・壁泉とも現状を維持すると伺っている。これについては、住民の意見を取り入れてもらったと考えている。

● 公園の活性化と住環境

稲毛海浜公園のリニューアル・活性化により、人の流れが増えることが予想されるが、住環境の保全が問題となる。ここ数年はコロナ禍でイベントが行われていなかったが、今年は比較的規模の大きいコンサートなどのイベントが行われ、結構な人の流れがあった。公園の活性化には反対ではないが、もろ手を挙げて賛成というわけではない。治安・騒音といった近隣の住環境を脅かす問題については、注意して頂きたい。

ただし、近隣の住民としてはリニューアルによる良い影響も評価している。トイレもきれいに改修された。今後も、地域に根差した稲毛海浜公園を作っていくにはどうしたらいいか、考えて頂きたい。

○美浜区長

● 情報発信

情報発信については、市政だより・ホームページだけで伝えるのは難しく、近隣の皆さんにはより丁寧な説明が必要だと考えている。個々の事案についてしっかり丁寧に説明がなされるよう、所管局に伝えていく。

● 施設の維持管理等・活性化と住環境

稲毛海浜公園のリニューアル及び運営については、そのポテンシャルを最大限に生かし、より魅力的で賑わいのある場となるよう、民間事業者（㈱ワールドパーク連合体）から事業提案を受け、同社と市が連携して取り組んでいる。

私自身も海には慣れ親しんでおり、稲毛海浜公園の活性化は喜ばしいことだと考えている。一方で活性化によって人が集まるようになると、ごみの増加や騒音、治安など、住環境の悪化が懸念されることから、そのバランスをどのように取っていくのが課題となる。イベントが住民に受け入れられつつ効果を発揮し、皆が海を誇りに思えるような公園となるよう取り組んでいきたい。

【テーマ3：居住外国人について】

○地域関係者 F

最近、特に外国人の方が増えてきた印象がある。特に高浜1丁目・4丁目の一部に多く住まわれている。高浜一小は少子高齢化の影響もあり児童数が84人で最盛期の1割程度となっているが、外国にルーツを持つ子どもが多く在籍している。

子どもは新たな環境に馴染むのが早いですが、親世代の大人たちは全く日本語ができないまま住んでおり、地域の生活ルールを理解してもらえない。居住前に日本語を指導することは難しいと思うが、ごみの棄て方などの生活ルールの説明を行って頂けるとありがたい。

○地域関係者 G

言葉が通じないし、生活習慣が全く違うので困ることが多い。自治会としても通訳してくれる人を見つけて生活のフォローをしているが、通訳自体も非常に困難であり、通じないことも多い。外国から来る方にとっても、知らない環境で暮らす苦労があるだろうし、我々も外国人だからと言って偏見を持つようなことはないようにしたいが、やはり仲良くなれる材料に乏しいのが実情だ。

○美浜区長

美浜区には外国人の方が多く居住されており、特に高浜1丁目は1,000人を超える方がお住まいになっている。皆様からのお話を聞いて、やはり、コミュニケーションを取ることは容易ではないと再認識した。多くが居住される前に日本語をしっかりと学べる環境ではないと思われるので、市としても国際交流協会日本語指導のプログラムを準備するなど、日本語を理解して頂くような取り組みを行っている。また、防災ガイドブック等の発行物も多様な言語で製作するなど、できることは行っているが、現状では対策が限られている。

先ほどのご意見のように、子どもたちは徐々に交流が深まっていくと思うが、やはり親世代は難しい。現在は多様性の時代と言われて久しいが、入ってくる外国人の方には地域に溶け込む努力をして頂き、地域としても優しい気持ちをもって受け入れて頂けるよう、区としてもお願いしたい。

(4) 総括

○美浜区長

コロナ禍ということもあり、これまで地域の皆さんとお話しできる機会を持つことができなかった。短い時間ではあったが、色々なお話を聞かせて頂くなかで、我々が庁舎にいただけでは分からない実態・熱量を感じることができ、非常に勉強になった。お招き頂いた皆様に対し、心から感謝申し上げます。

(5) 閉会